

6
7
8
9
30
1
2
3
4
5
6
7
8
9
40
1
2
3
4
5
6

福壽形籠

標子

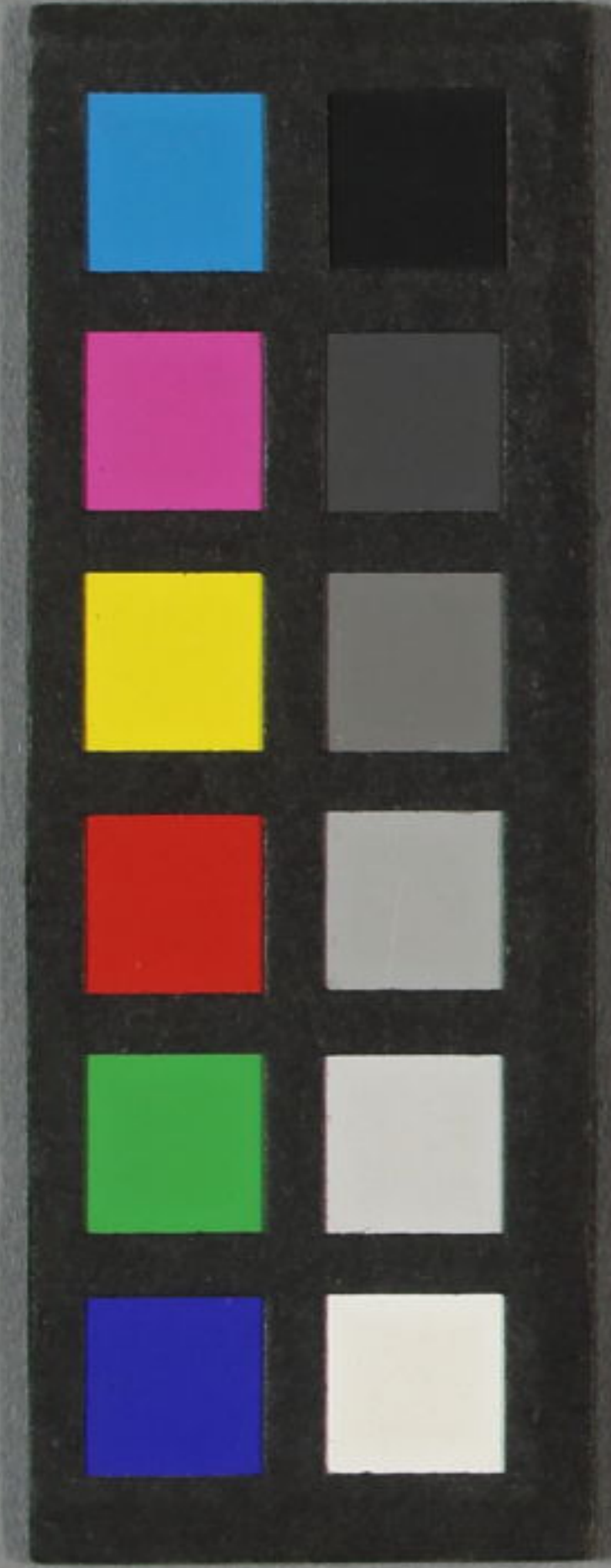
三編

樂亭西馬作
一勇齋國芳画



錦

~ 13
3832
2

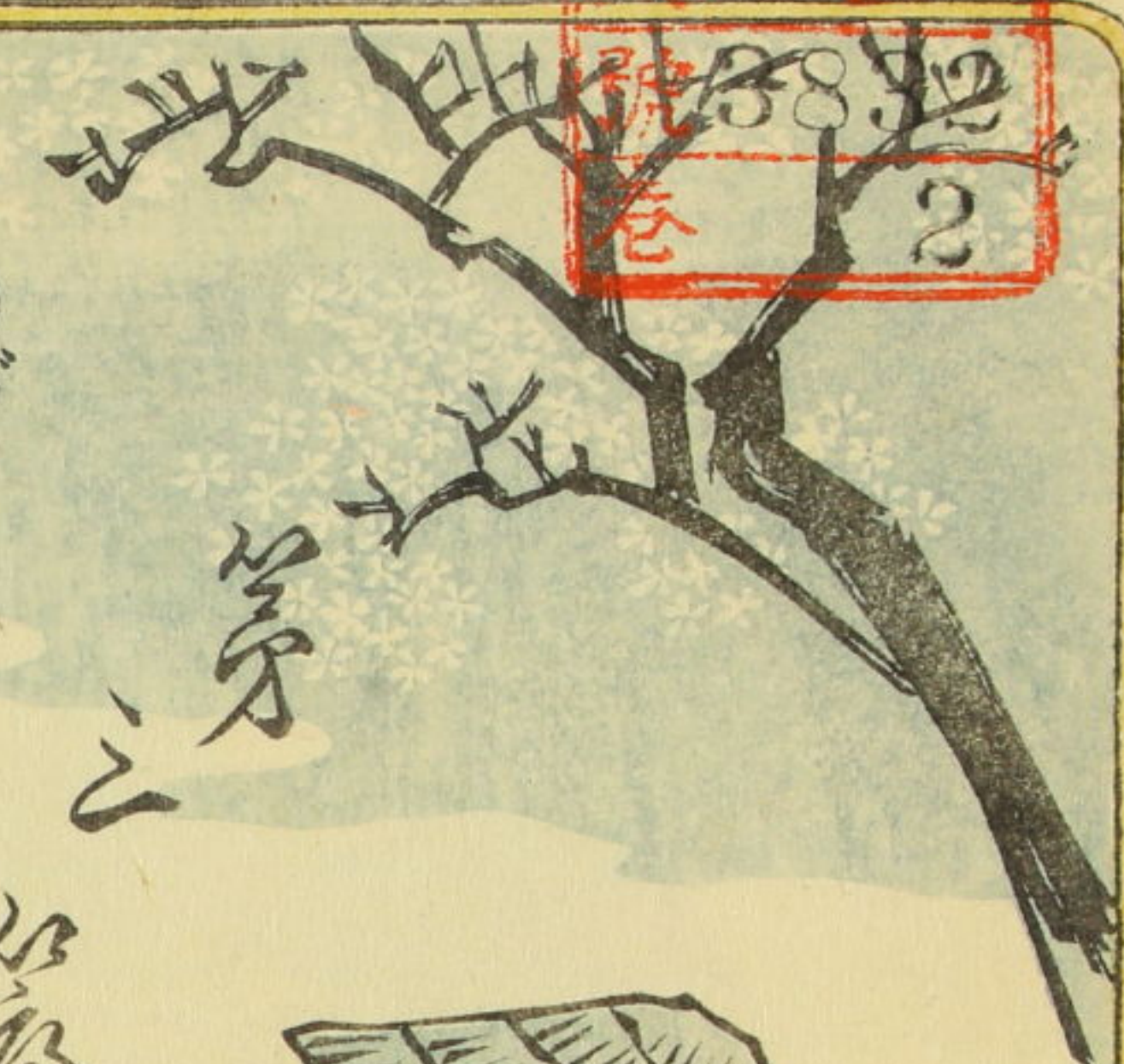




三編上

錦
文庫

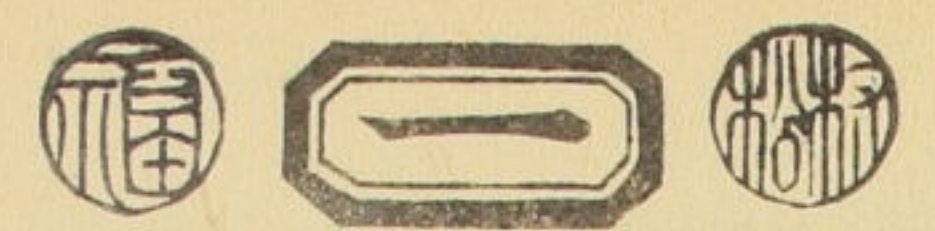
門へ13
神38
巻2



怪氣上
標子丹
西馬化
國サ方虫



照像所
七五比嘉屋板



勸學院の誰蒙求と時。構門乃幼童不學經誦句當れ歩助十四經と空言吐
湯室ハ婢婦越馮節と諷。術談場隣赤子筒音に不怖失火乃乘馬
物小驚驚。是馴ると染るの故あり。産聲に邪正の差別。訓と友小より。友
差に梓行と縮妻形怪鼠標子。故翁の著述。説史以基と。これ不破名
護屋ハ倚語と終。合せ既小三の編と鼓販せ。不幸吉利冊數運ひよ。と
向ハ篇と需む依。縮妻のやれ。染下地。二本傘のやれ。纏と。此三四の巻ハ大意
と。實小義高。嵐の術少鳴動響音。東風ハ眩氣。猫間の耳越。と雨
り。ひれ徒然。初雷乃。あつ。組音柙の滯燕。其朝當の。願。一勇齋
例の筆勢。たの。御仕看。達衣裳。股。勺。の順。と。速。の。人。

嘉永六癸丑歲孟陽新鵜

樂亭西馬題



源實朝卿

天野二男
藤原景延
後平藤平と改む



折らざる見ん
角が谷の
若の屯
基春

源實朝卿

天野藤内が
嫡子
藤原市
遠道

源實朝卿

右少將
源頼家卿



我にせり
鎌倉山を
よえり
平目おと
婿しうり
け色
鎌倉右大臣

名越山大夫
嫡子
山田郎

木曾樋口餘類
不破伴之進重連
後平藤平と改む

後平藤平
名護屋
山田
元冬

天野藤平伴母の

氏を名乗
淳世之助
直道

小袖

雪の下

基春

女愛珍股

若草



女之助の隠子
小鶴

鎌倉
津世屋股平

不破伴之進弟分

長谷部

横宗

松平

新ゆき

月の雪くま

何あまのま

枝のまの雪

花咲菴

天野家僕
笹良三八

甘縄堤非人
土子泥助





頼家卿

実朝卿



天野藤内

藤市



頼家卿は又より平家
 の所から大坂に上り
 あつて男子をうけた
 也兄は頼朝の御孫と
 言ふは頼朝の御孫と
 言ふは頼朝の御孫と
 のちくちくは頼朝の御孫と
 言ふは頼朝の御孫と
 言ふは頼朝の御孫と
 言ふは頼朝の御孫と

山吉郎



不破伴之進

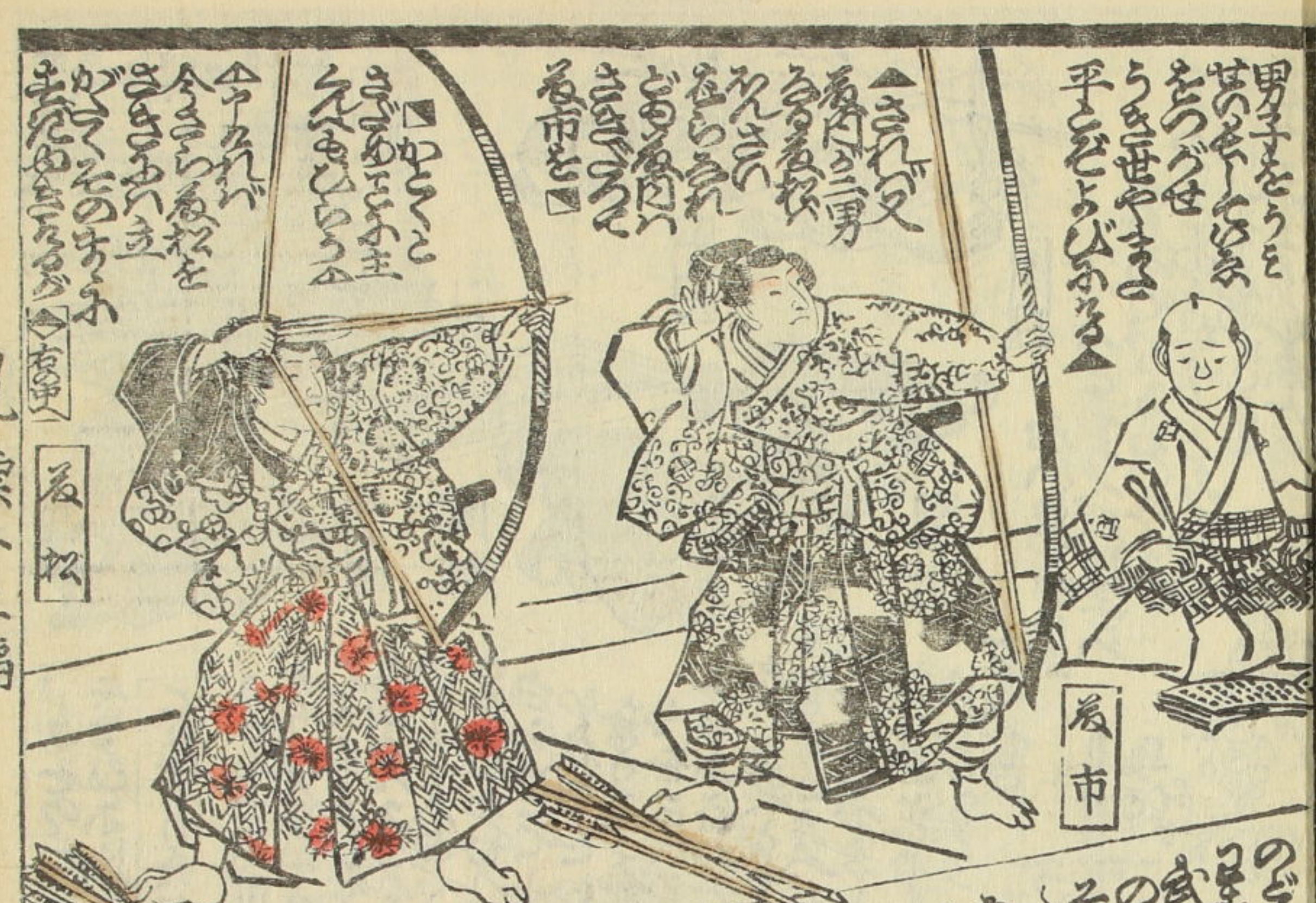


藤松

上の山大夫は山吉郎藤内か二人の
 せられは市松松のみならず
 相つたきものなるれんを
 らふ又木曾のらふ

名越三大夫

この山吉郎藤内か二人の
 せられは市松松のみならず
 相つたきものなるれんを
 らふ又木曾のらふ



男子をうら
其のくさひを
たつぐせ
うき世やま
平心とびかま

△おの洋装者
あふじいさき
らくさるのめ
かえんあけ
なるふいあ
かえんあけ
なるふいあ
かえんあけ
なるふいあ



△おの洋装者
あふじいさき
らくさるのめ
かえんあけ
なるふいあ
かえんあけ
なるふいあ
かえんあけ
なるふいあ

△おの洋装者
あふじいさき
らくさるのめ
かえんあけ
なるふいあ
かえんあけ
なるふいあ
かえんあけ
なるふいあ



△おの洋装者
あふじいさき
らくさるのめ
かえんあけ
なるふいあ
かえんあけ
なるふいあ
かえんあけ
なるふいあ

△おの洋装者
あふじいさき
らくさるのめ
かえんあけ
なるふいあ
かえんあけ
なるふいあ
かえんあけ
なるふいあ



△おの洋装者
あふじいさき
らくさるのめ
かえんあけ
なるふいあ
かえんあけ
なるふいあ
かえんあけ
なるふいあ

△おの洋装者
あふじいさき
らくさるのめ
かえんあけ
なるふいあ
かえんあけ
なるふいあ
かえんあけ
なるふいあ

伴之進

山吉郎



世に名を上げた男
一人をの助け
月の山

世に名を上げた男
一人をの助け
月の山

北條義時



和田義盛

上の年の月用をり
名を上げた男
一人をの助け
月の山

名護屋山

世に名を上げた男
一人をの助け
月の山

世に名を上げた男
一人をの助け
月の山

天野藤平



女の助へ心まわすおのれは
三八とておのれのいふくまを
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ

おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ



身とよびる長谷部
雲六は世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ

藤平



おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ

音乃



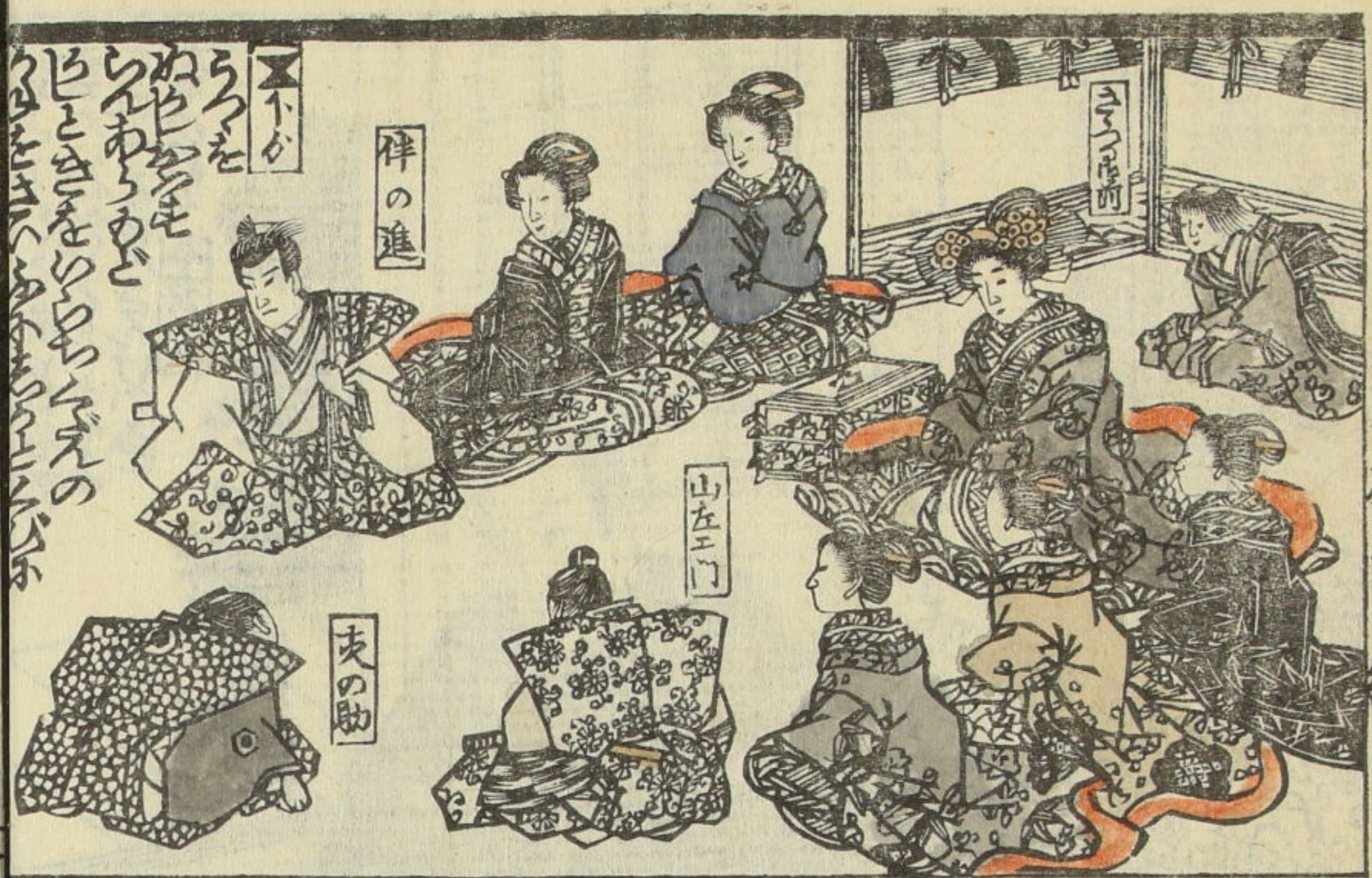
亥之助

向和香

浮世屋腰平

おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ

おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ
おのれは世をさるるおのれ



Vertical text columns on the right page, including a large block of text and a label '雲六' at the bottom.

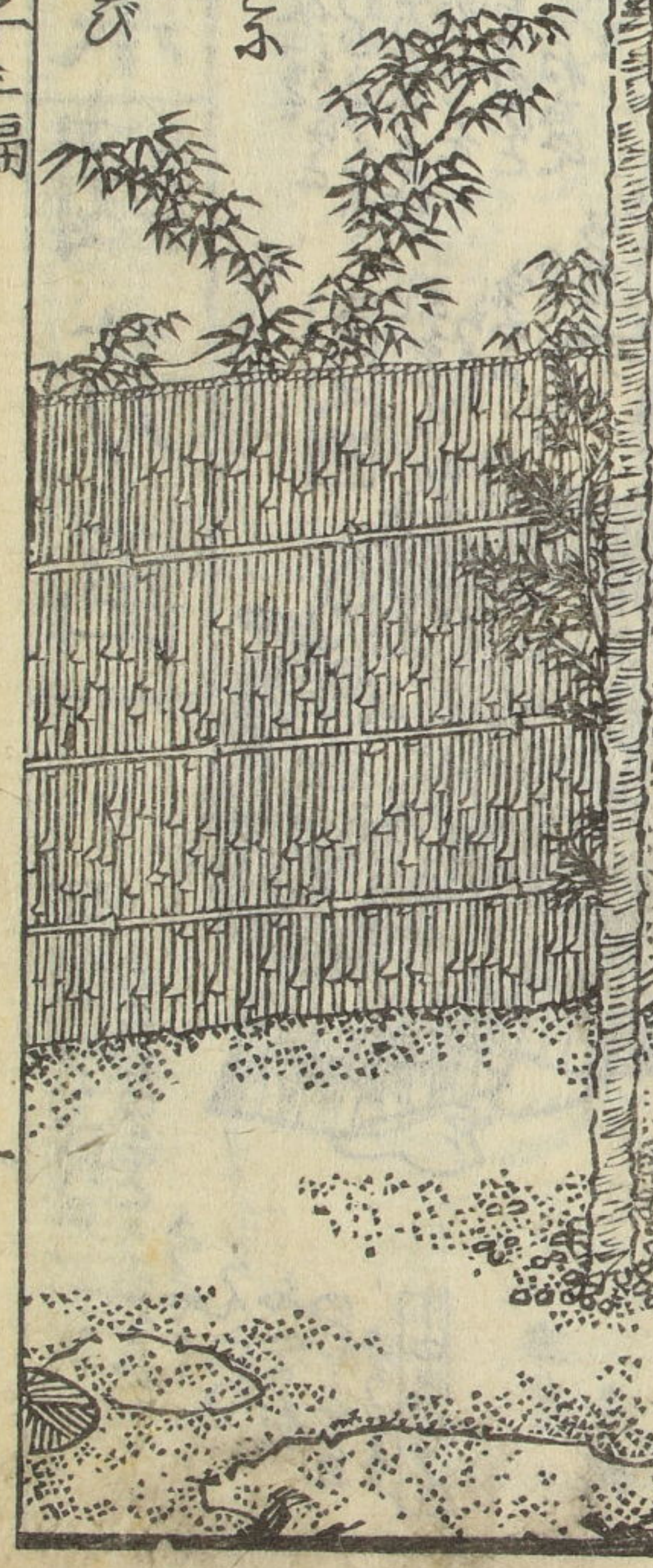


Vertical text columns at the top of the left page, including a label '※右の...'. The text is written in a cursive style.

Vertical text in the upper left corner, likely a title or introductory text for the scene.

Vertical text on the left margin, possibly a chapter or page indicator.

Vertical text block in the middle of the left page, possibly a dialogue or narrative passage.



亥之助 (Nameplate for the standing man)

若井 (Nameplate for the kneeling woman)

Vertical text block on the right side of the illustration, possibly a dialogue or narrative passage.

Vertical text in the upper right corner, likely a title or introductory text for the scene.

Vertical text on the right margin, possibly a chapter or page indicator.

西馬補案國芳画

貞享三年

西馬補案の画に於けるは
其の意匠の新奇にして
筆力の雄健にして
色彩の鮮明にして
人物の情態の活潑にして
風景の幽雅にして
其の妙不可言にして
余は其の心を以て
大いに悦ぶ



上
この画は、
西馬補案の
筆力、雄健、
色彩、鮮明、
人物、情態、
活潑、風景、
幽雅、其の妙、
不可言、余は、
其の心を以て、
大いに悦ぶ

浄書
青洲

錦昇堂藏板新鑄目録

稲妻形怪鼠標子

西馬補案画

比翼 笠亭仙果作
裁縫 一雄斎
画 倆權八

誠忠大星譚
柳下亭種員作
一陽齋豊國画

此を錦繪問屋より取りて、
以て、
大いに悦ぶ

稻妻形怪鼠標子

樂亭西馬作
一勇齋國芳画

三編下



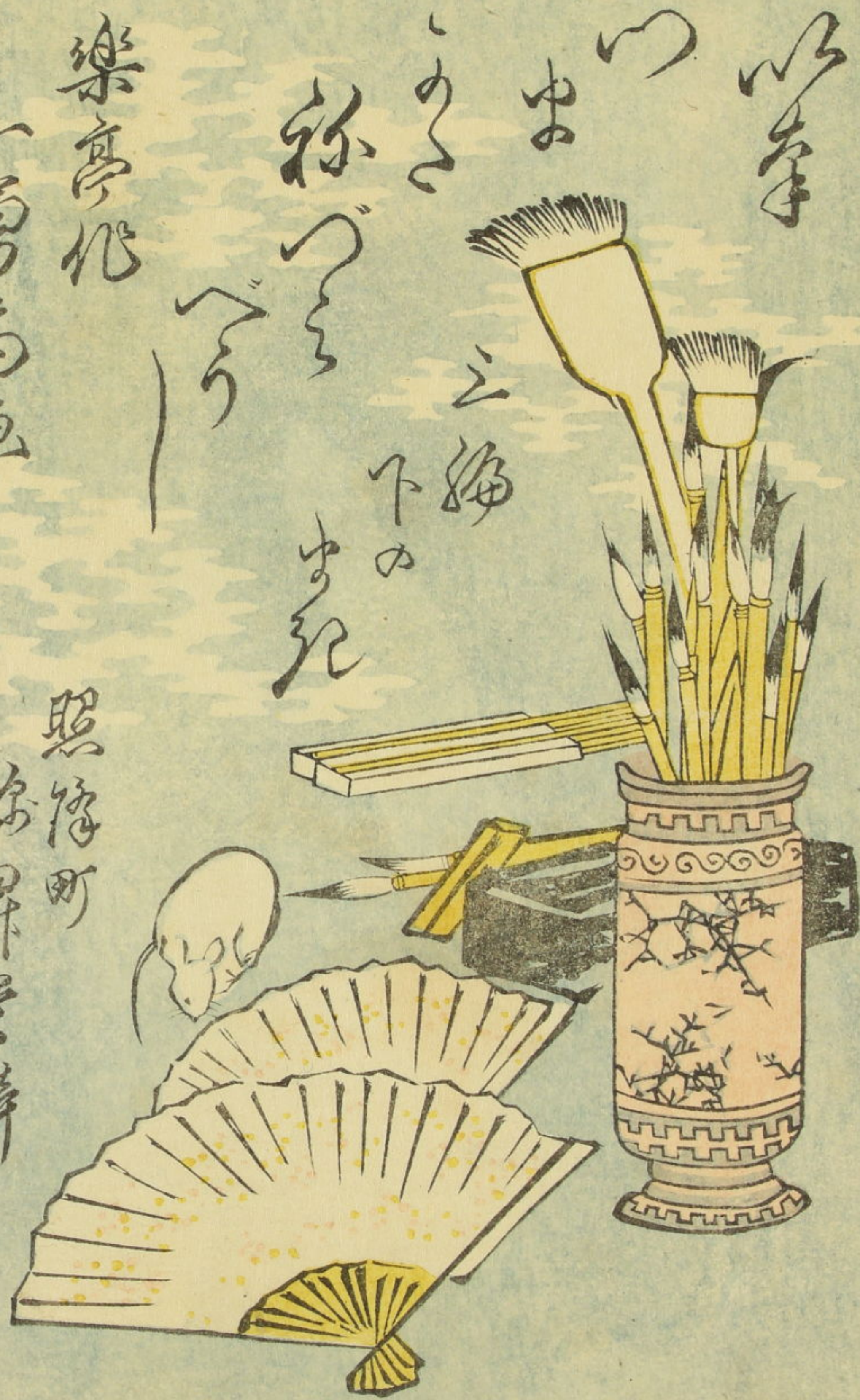
Handwritten Japanese text in the upper left corner, including the characters '福' and '三'.



Handwritten Japanese text in the lower left corner, including the characters '三良三八'.

樂亭化
一勇高画

照得町
孫界堂持



Handwritten Japanese text in the upper right corner, including the characters '以' and '心'.

此の物語は、
 昔の物語に
 似てゐるが、
 其の趣向は
 全く異なる
 ものである。
 其の物語は、
 昔の物語に
 似てゐるが、
 其の趣向は
 全く異なる
 ものである。



此の物語は、
 昔の物語に
 似てゐるが、
 其の趣向は
 全く異なる
 ものである。

此の物語は、
 昔の物語に
 似てゐるが、
 其の趣向は
 全く異なる
 ものである。



此の物語は、
 昔の物語に
 似てゐるが、
 其の趣向は
 全く異なる
 ものである。



【中から受け
これにさすまふ
つら一とくらに
これのめりきを

つらひんあ
けらのの

仲の進



【右】
うん六
おつてこれに
用金まのりむら
さ社その身いあ
ねいくとあつら
大ねまらあやう
いつあいつのあ
きの人口うさか
【右】
うん六
おつてこれに
用金まのりむら
さ社その身いあ
ねいくとあつら
大ねまらあやう
いつあいつのあ
きの人口うさか
【右】
うん六
おつてこれに
用金まのりむら
さ社その身いあ
ねいくとあつら
大ねまらあやう
いつあいつのあ
きの人口うさか



【上】
まの助
おつてこれに
用金まのりむら
さ社その身いあ
ねいくとあつら
大ねまらあやう
いつあいつのあ
きの人口うさか

三八

【上の左】
おつてこれに
用金まのりむら
さ社その身いあ
ねいくとあつら
大ねまらあやう
いつあいつのあ
きの人口うさか

【この草】
おつてこれに
用金まのりむら
さ社その身いあ
ねいくとあつら
大ねまらあやう
いつあいつのあ
きの人口うさか

【この草】
おつてこれに
用金まのりむら
さ社その身いあ
ねいくとあつら
大ねまらあやう
いつあいつのあ
きの人口うさか

つぎのひまぐり
のびあられきり
うらまのまのや
かりあふえられ
いとまこひえみ
本りのるあけき
とゆくろし人
めあゆらとむあ
るあやとま
とのあのへら
まあゆひ
あふ下ゆひ

さきん
つらさき
ひあき
ひり
まま
あふれ
てあき
みつら
のあゆ
あふれ
まあ
ひら
ひら

笹良三八

あふれ
あふれ
あふれ
あふれ
あふれ
あふれ
あふれ
あふれ
あふれ
あふれ



右の
やくあ
まの

眼助

泥助

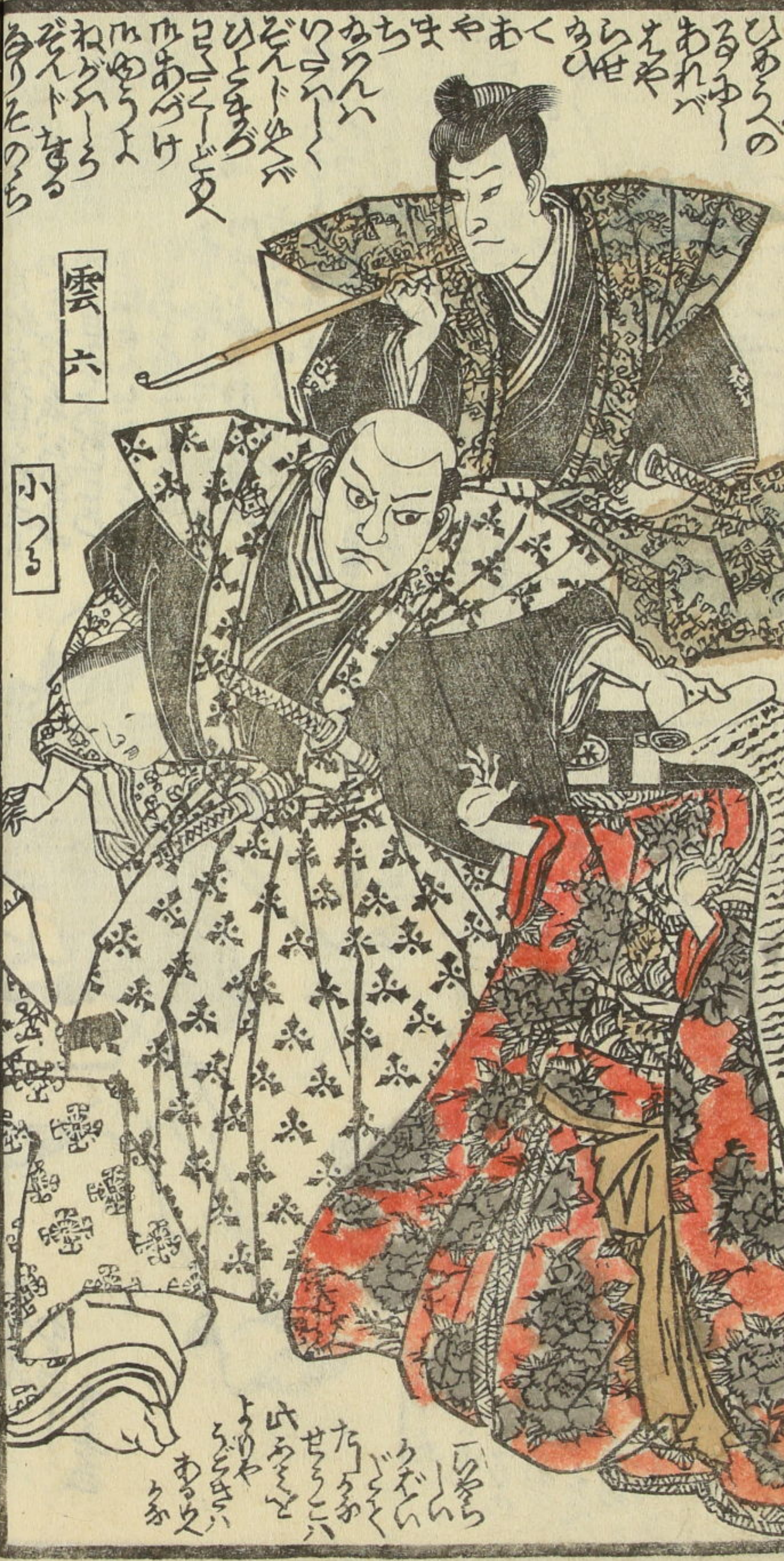
あふれ
あふれ
あふれ
あふれ
あふれ
あふれ
あふれ
あふれ
あふれ
あふれ

「吾れ下むらうのちり
 さいふくよちやうあたる
 うつゝんりさきらひあふも
 そんりまき

伴之進

コウ草

「かのきさあふとらあ
 うまひのい
 うま



雲六

小つも

「い
 うま
 うま
 たい
 せう
 せい
 せう
 せい
 せい
 せい
 せい

「あ
 お
 ち
 の
 ち
 の
 ち
 の
 ち
 の
 ち
 の
 ち
 の

山左エ門

亥之助



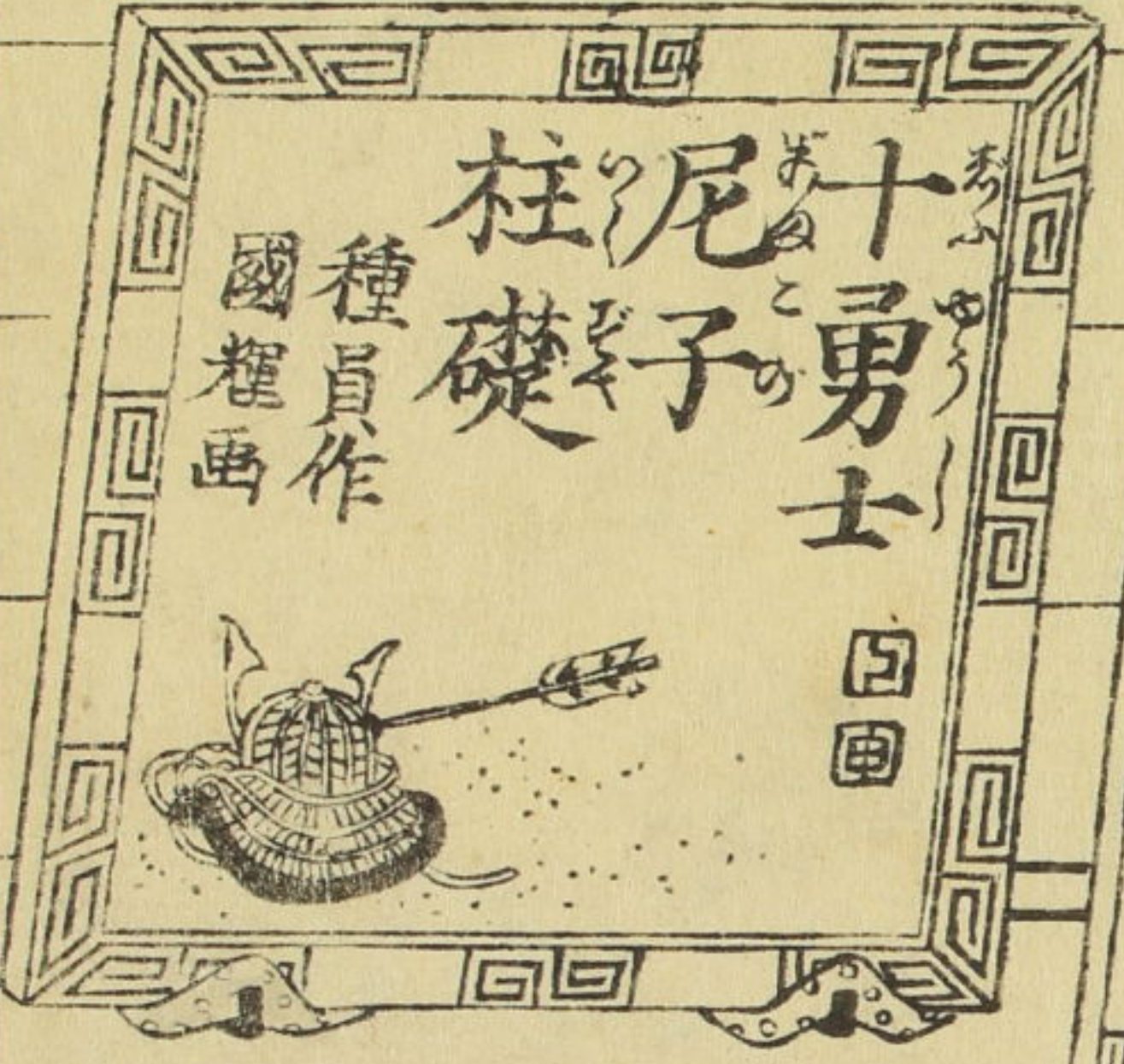
上か 藤平

「あ
 ち
 の
 ち
 の
 ち
 の
 ち
 の
 ち
 の
 ち
 の

「あ
 ち
 の
 ち
 の
 ち
 の
 ち
 の
 ち
 の
 ち
 の

嘉永六癸丑新鐫目錄

庄地本錦繪問屋東都より下惠比壽屋庄七版



日由縁部係

雨夜種員作 田千代 雑談

柳下亭種員作 一陽齋豊國画 梅蝶樓國貞画

樂亭西馬補編



淨書青洲

稻瀬姫

若艸

朝櫻樓國芳画

Handwritten text in the upper right corner, including '実朝卿' and other characters.

西馬作國芳画



上册

金屋堂



福妻形

怪嵐標子

四海

上冊

西馬化

一勇斎

國芳画



嘉永六癸丑年
錦屏堂

奮鼠反て猫と食大蝦蟆怒と頓地と討蚊帳と雷以除衣と火箭と
 防ふふむと弱き終ふ強と折傷致され雲泥雜稗史も画作少方摺製
 無二双ふもやん中と譽る賣高形と拙き著意授得の画に上塗むけ下彫製本
 鼻のちかぬと投伝品ふと以表裏評端で花戯の吸筒出と駒に引と走る
 高名ゆりゆり此冊子の書賈の望注頼豪怪嵐新小説と大既小立案かの
 稲妻の鞘當と綴り合せて草稿せよとひとより需に押辞もこれを昨冬両囊袋帯
 せふ一勇齋が筆勢小配本乃走とくし筒后の巻と催促あれ今梓行ぬと三編も
 暫く不破名護屋の筋と譯とある故人は名吟あつて稲つゝの始の見給る販元が鼻の
 下も濡燕枕高く峙せんと六法ありぬ張臂し雨の具も星は夜も照降町の鼓花は街
 標者と繻と事とる程

嘉永六癸丑年初春新鑄

樂亭西馬識

福妻形



新
まき
まき
小猫
緒にわける
たづね
蚊屋
くまの秋丸
樂亭

・榛澤六郎
成清

・大姫君



・鼠尾草彈正秋風
実須弥津冠者
義高

笠ねくや
安念のらの
梅翁

・秩父庄司
次郎重忠



浪人
曲積不忠天
厚旨

其雪が娘
沖路

宗周



餅の
名は
よみ
み
山
西馬

佐藤憲清雜掌
越野鞆負妻
其雪

猫間新太郎
先實

雲助
馬省の
他
郎五

希妻 丹四郎



太五

不忠太

二助

中々山ごえはておののふゆこ
 をよるころあんなつうれも
 へこびとあやえをさうらふちうゆ

のひさるまのやうなうを
 みるよる人のやまをさう
 へこびとあやえをさうらふちうゆ

左の



左の
 かつて
 ふちと
 わひち
 まうま
 のま
 らま

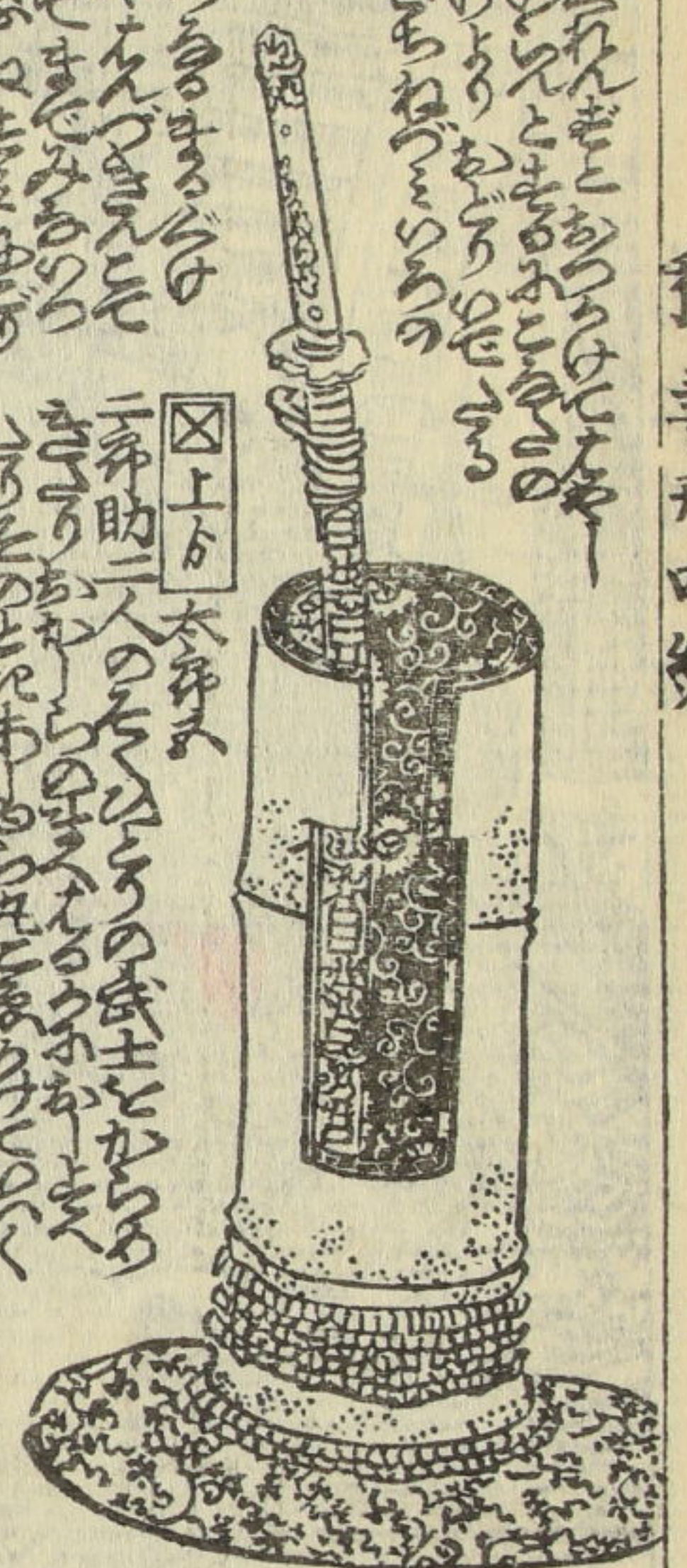


不忠太

のひさるまのやうなうを
 みるよる人のやまをさう
 へこびとあやえをさうらふちうゆ

稲妻

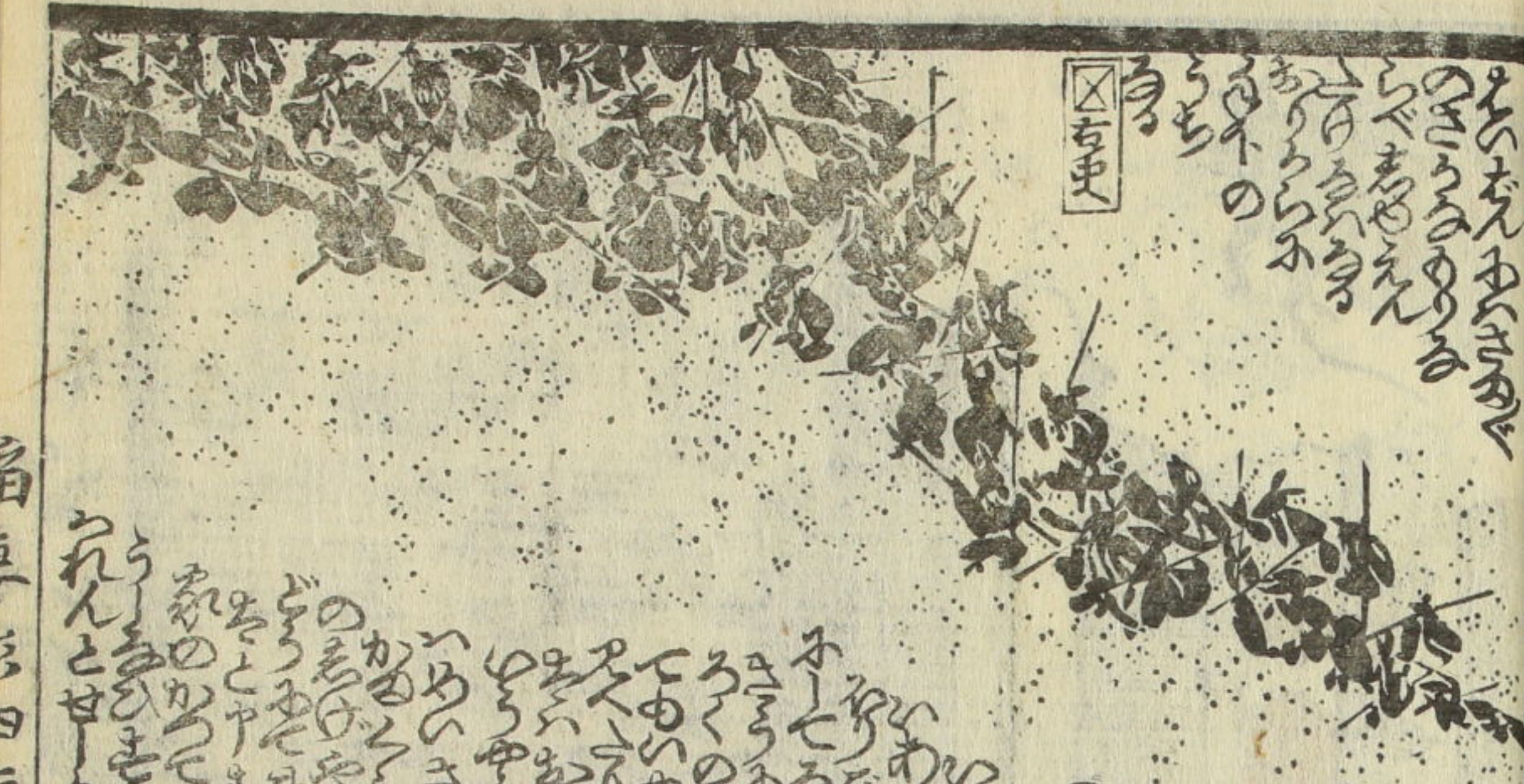
稲妻



Handwritten text in the upper right quadrant of the page.



Handwritten text in the lower right quadrant of the page.



Handwritten text in the upper left quadrant of the page.

Handwritten text in the middle left quadrant of the page.

Handwritten text in the middle left quadrant of the page.

Handwritten text in the middle left quadrant of the page.

Handwritten text in the lower left quadrant of the page.

Handwritten text in the lower left quadrant of the page.

Vertical text on the far left margin of the page.

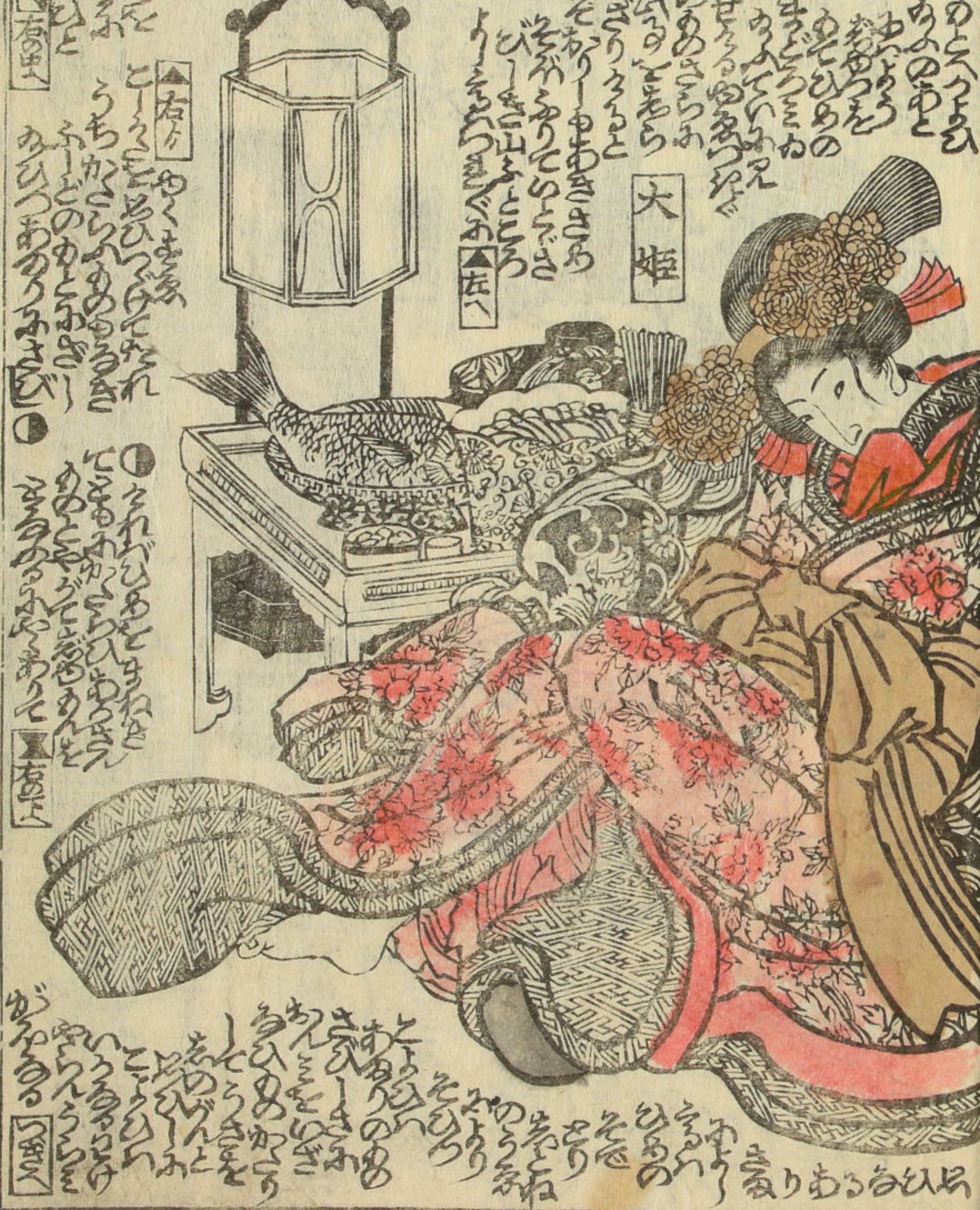
ついでに... 希妻の... 希妻の... 希妻の...



阿修羅元

阿修羅元... 阿修羅元... 阿修羅元...

うきあつひ... 希妻の... 希妻の... 希妻の...



大姫

大姫... 大姫... 大姫...

右... 右... 右...

左... 左... 左...

下... 下... 下...

錦昇堂藏板新鐫目録

池本錦繪同巻より取りて以て表紙に用ひたる也

比翼 笠亭仙果作
 一雄 裁縫 國齋
 画 倆權八

誠忠大星譚 柳下亭種員作
 一陽齋豐國画

稻妻形怪鼠標子

西馬 國画

つぎにひめのお世のいひがた
 から山おふまをいふて
 世ふあつたものとおのこを
 あつたおのこをいふて
 ひめのお世のいひがたをい
 るおのこをいふて
 あつたおのこをいふて
 ひめのお世のいひがたをい
 るおのこをいふて
 あつたおのこをいふて
 ひめのお世のいひがたをい
 るおのこをいふて
 あつたおのこをいふて



新妻形四巻

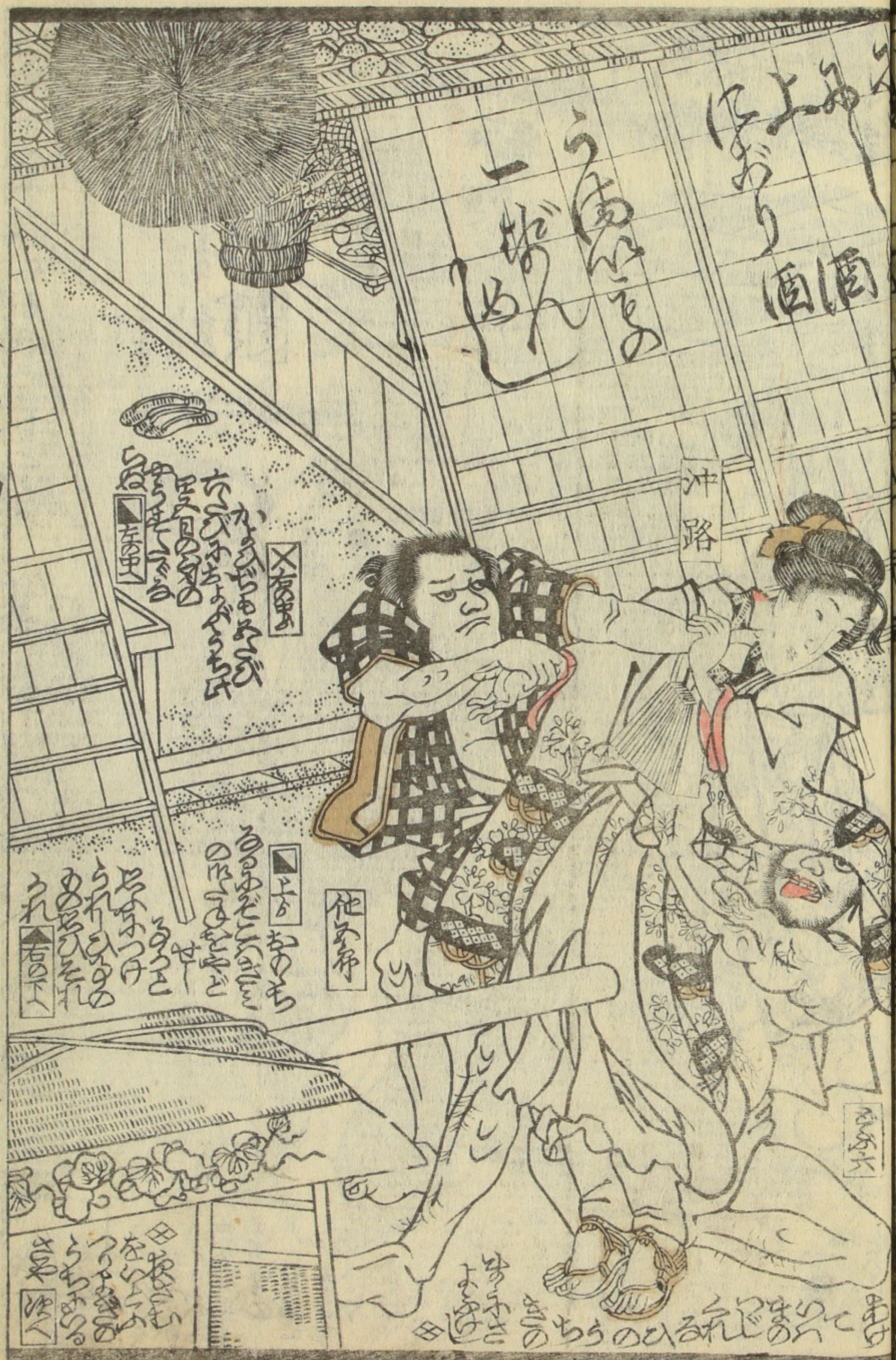
西馬補案國芳画

箱形鼠子 怪妻標 第四編



下冊







百鬼夜行記

十四

不忠太



其雪

沖路

子入の... せいの... ちの... せいの... ちの... せいの... ちの...



光実

綾衣

有申



不忠木

中世の物語
の物語の
の物語の

蛇

蛇の物語
の物語の
の物語の

魚の物語
の物語の
の物語の



沖路

其

蛇の物語
の物語の
の物語の

魚の物語
の物語の
の物語の

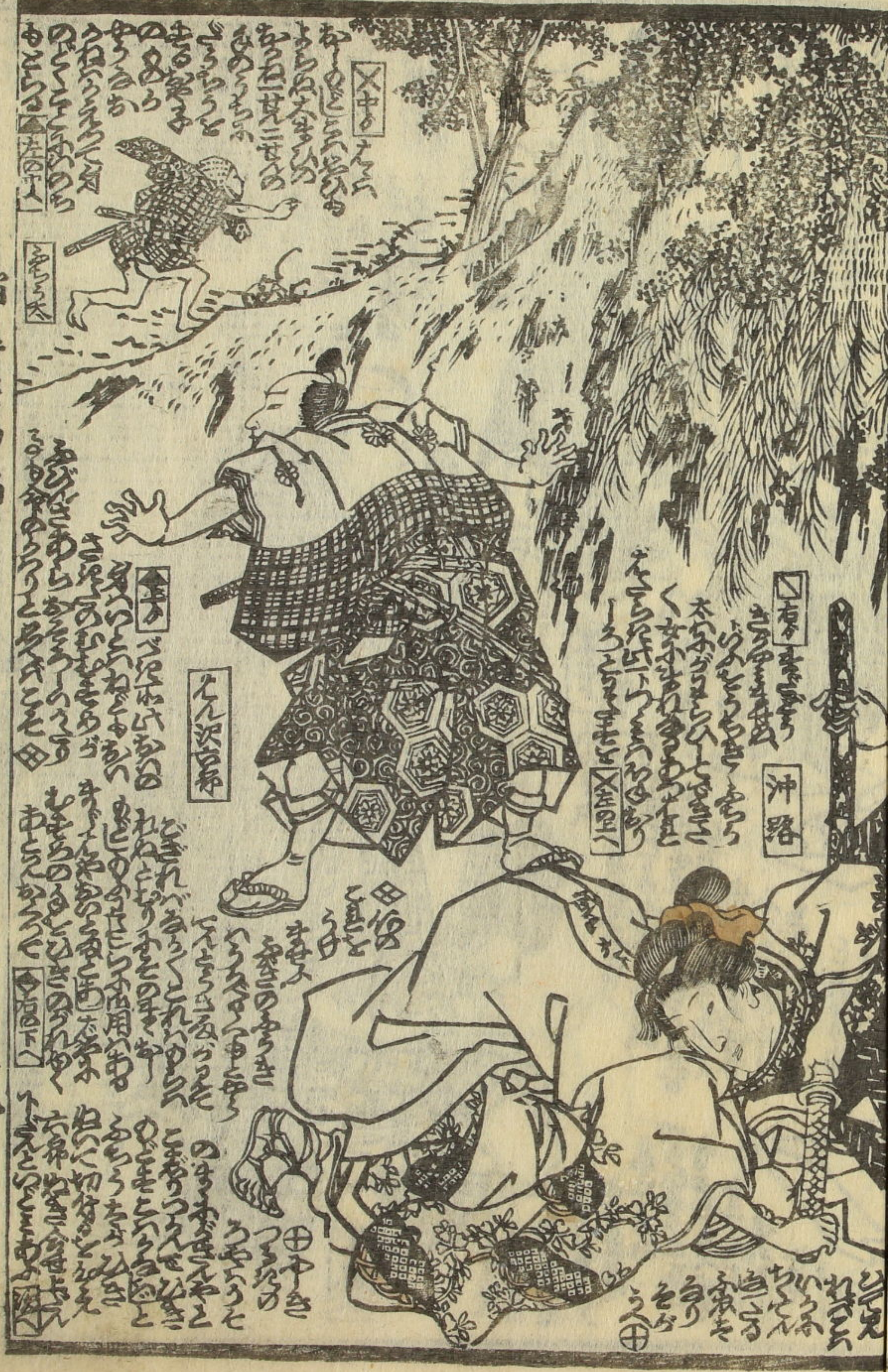
目録
一 巻の序
二 巻の序
三 巻の序
四 巻の序

目録
一 巻の序
二 巻の序
三 巻の序
四 巻の序



光実

其雪



八ノ沢

沖路

和妻丹四第

一七



右の
 鬼五
 阿修羅
 六郎成清
 光実
 不忠太

阿修羅
 鬼五
 六郎成清
 光実
 不忠太

重忠
 鬼五
 六郎成清
 光実
 不忠太

不忠太
 鬼五
 六郎成清
 光実

六郎成清
 光実
 不忠太

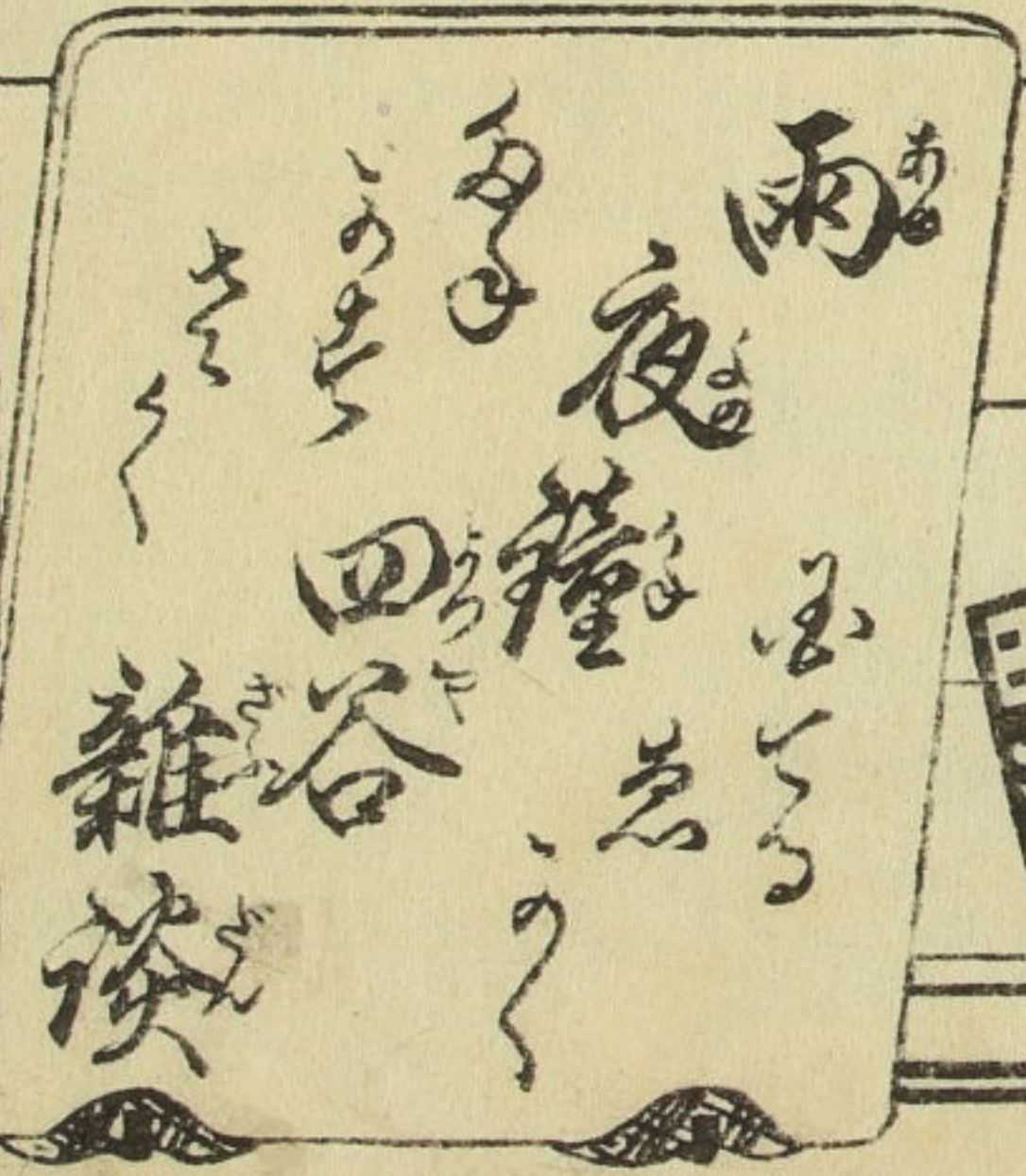
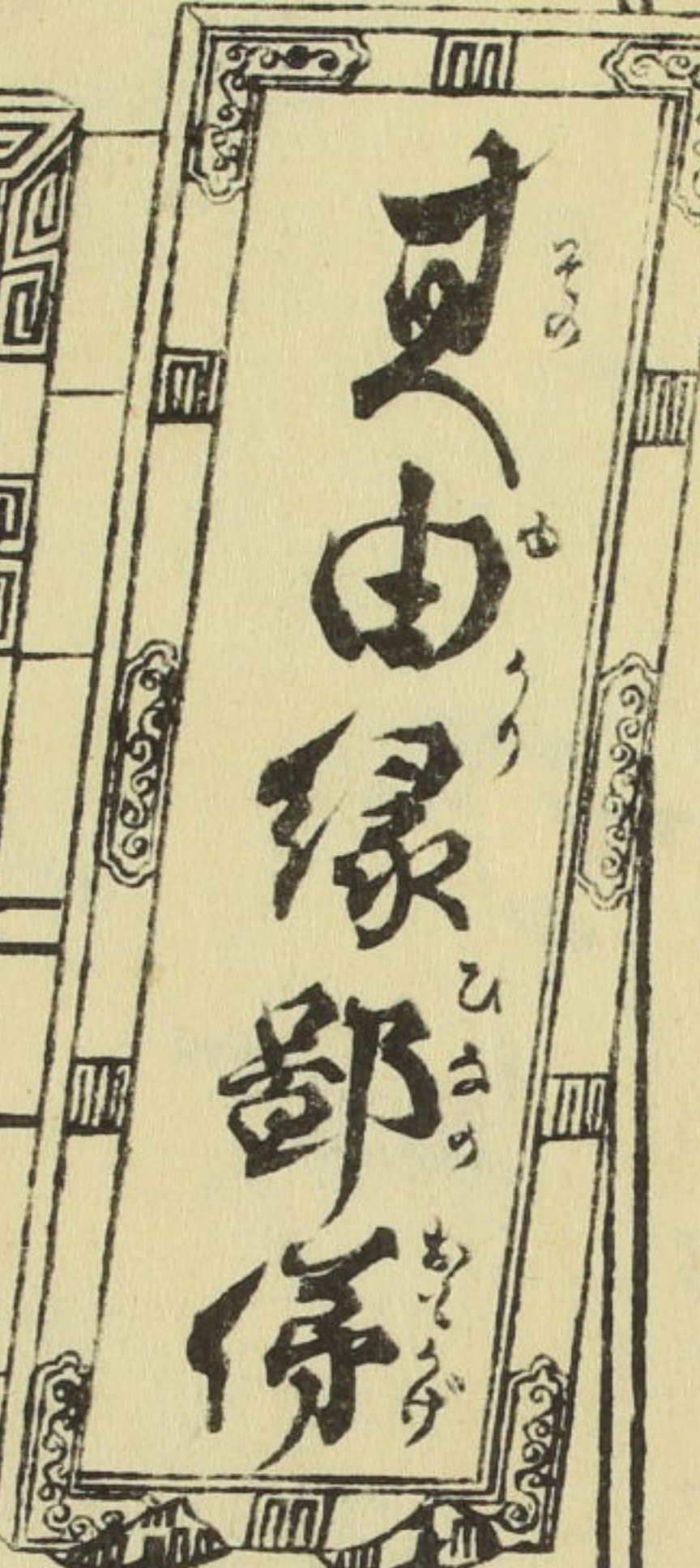
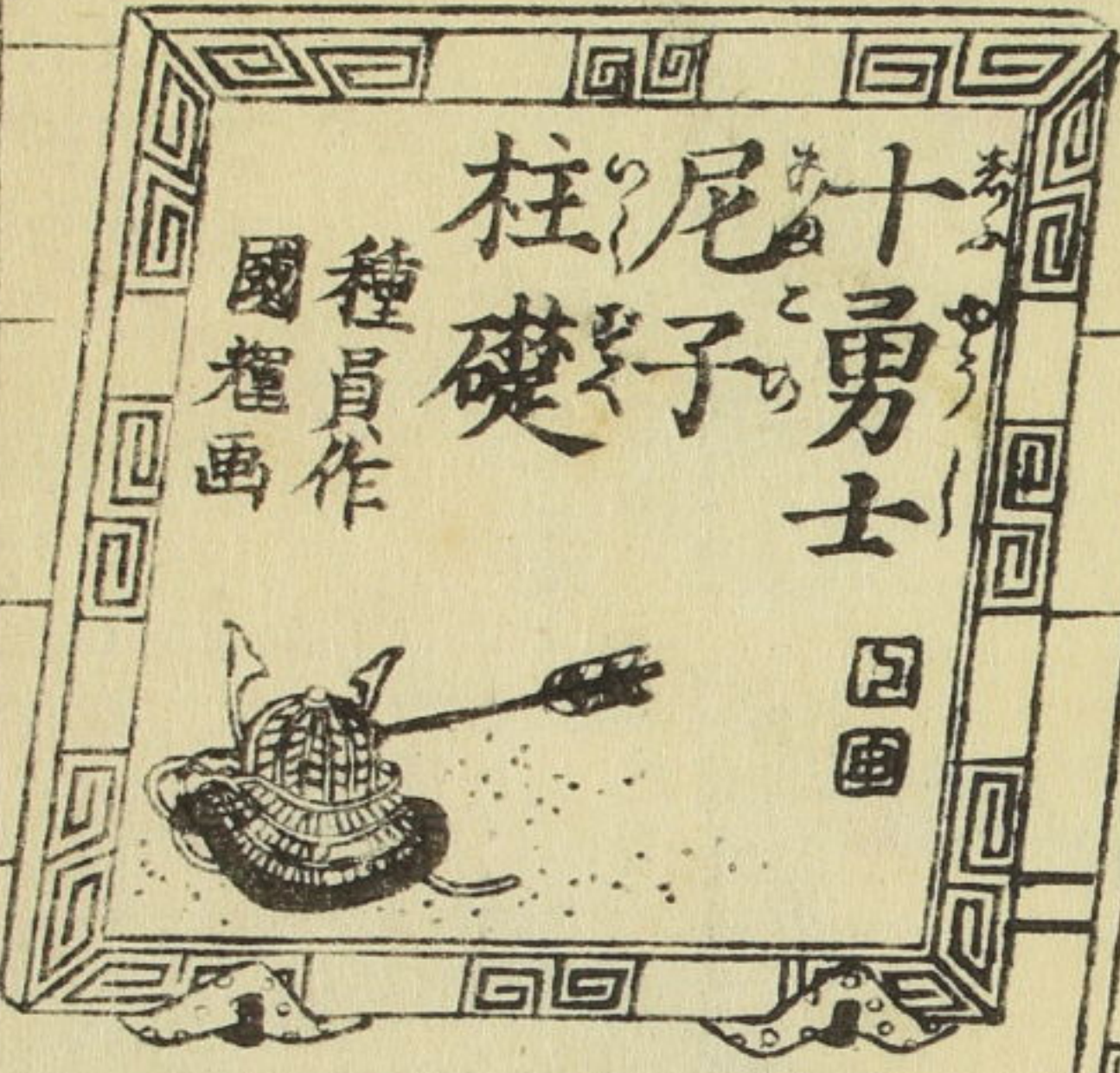
不忠太
 鬼五
 六郎成清
 光実

鬼五
 六郎成清
 光実
 不忠太

六郎成清
 光実
 不忠太

嘉永六癸丑新鐫目錄

金庄地本錦繪問屋東都下子惠比壽屋庄七版



柳下亭種員作
一陽齋豊國画
梅蝶樓國貞画

一勇齋國芳畫



樂亭西馬補案

種員作

七版



以方引

第四編

あつらひ

ねづ

し

樂々

西る化

一勇富

國芳画



錦昇堂持